穀雨（こくう）

4月20日頃（2025年は4月20日）。 および立夏までの期間。
太陽黄径30度
清明から数えて15日目頃。
春季の最後の節気。

春雨が百穀を潤すことから名づけられたもので、雨で潤った田畑は種まきの好期を迎えます。この時季に、特に雨が多いというわけではありませんが、穀雨以降、降雨量が多くなり始めます。

「清明になると雪が降らなくなり、穀雨になると霜が降りることもなくなる」という言葉があるように、南の地方ではトンボが飛び始め、冬服やストーブとも完全に別れる季節です。

変わりやすい春の天気もこの頃から安定し、日差しも強まってきます。
昔から、この日を田植えの準備をする目安にしているようです。

穀雨が終わる頃に八十八夜を迎えます。

百穀春雨（ひゃっこくはるさめ）

この時期に降る雨は、百穀を潤し芽を出させる春雨として「百穀春雨」といわれています。
穀雨は、種まきなどを始めるのに適した時期なので、農作業の目安にされています。

季節の言葉

- 山笑う（やまわらう）
  春、山の草木が一斉に芽吹き、明るく生気にあふれた姿になること。
  春の季語になっています。

Copyright(C)2005-2017 koyomigyouji. All Rights Reserved.